



サンビオティック農業で大豊作！

そろまめ 栽培基準



時期	ステージ	商品名	10a施用量・倍率	施用方法	備考
9～10月 (畝立て 1か月前)	土づくり	有機石灰(苦土石灰)	50～100kg	土壌混和	あらかじめ土壌分析に基づいてpH調整(pH6.0～6.5が最適)、有機石灰などの施用をしておきます。豆類は特に収量と品質を上げるために、カルシウム(石灰)が重要なため、省略しない方がよいでしょう。苦土が不足した圃場では、苦土入り有機石灰や、苦土石灰を施用します。
		完熟堆肥 菌力アップ	1トン程度 5リットル	土壌混和 散布(灌水)	バーク堆肥、腐葉土など、できれば植物性の堆肥を1トン程度施用します。五穀堆肥なら50袋、牛糞堆肥なら500kg～1トンです。発酵鶏糞や豚糞堆肥の場合は、200～300kg程度とし、合わせてワラ、もみ殻、落ち葉などを3か月前～半年前に土壌混和しておくといはいいです。堆肥と一緒に菌力アップをまんべんなく散布し、土壌混和します。豆類では、根粒菌の働きを高めるため、水分保持と通気性が非常に重要で、土づくりで微生物を増やし、団粒化した土壌を作ります。
10～11月 (定植1週間前)	元肥	有機百倍 鈴成 (硫酸苦土肥料)	80～100kg 160kg 50～60kg)	土壌混和	品種によって植え付け時期が遅くなるに従い、有機百倍の量を増やします。(2～3月春播きの場合は、160kg程度)地温が低いと、初期成育が遅れやすいためです。前作によっては、地力窒素がかなり残っている場合がある為、そのような場合は、減肥又は無施肥とします。苦土が不足する圃場では、硫酸苦土肥料を加えます。
	播種 (ポットまたはセルトレー)	野菜用育苗培土 鈴成 菌力アップ	必要量 培土に3～5%混和 100倍希釈	灌水 7日おき ×4回	培土に鈴成を混和すると、病害虫に強く、また収量・品質が向上します。乾燥防止のため、土が乾いている場合は、初期灌水を行います。セルトレーの場合は、新聞紙などで保湿してください。発芽まで、灌水しないでください。育苗中は徒長とならないように、温度管理(15℃以下、30℃以上にならない)、日照確保、過湿にならないよう管理してください。徒長した場合は、コーソゴールド500倍と純正木酢液500倍の葉面散布を数回実施してください。
	定植	菌力アップ マジ鉄	100倍希釈 5000倍希釈	定植前植え穴 灌水、苗のどぶ 漬け、根回し水 の計3回	菌力アップの根粒菌を定着させ、同時に土壌微生物相の改善を図り、フザリウム菌や、ピシウム菌による苗立枯病のリスクを軽減します。マジ鉄のミネラル(特に鉄やモリブデン)は根粒菌の働きを促進します。定植後、畝上にはもみ殻や裁断ワラで4～5cm程度有機物マルチをすると、長期間土壌の団粒化を維持し、又乾燥を防ぐため、生育が良くなります。
	生育初期	コーソゴールド 海王	500倍希釈 5000倍希釈	葉面散布 (随時)	花芽分化促進と病害虫抵抗性向上のために散布します。農薬と混合施用して良いです。病害虫がある時は、純正木酢液500倍希釈を併用します。海王は、植物ホルモンの働きにより早期の草勢展開を図ります。
開花期以降		有機百倍 硫酸カリ (又は、ケイ酸カリ)	20～30kg/回 3kg/回 (10kg)	土壌施肥	開花期に1回目追肥、莢肥大期に2回目を追肥します。黒マルチは5月ごろ温度が上がると焼けるため、被覆をはがして追肥し、雑草予防・倒伏防止のため培土します。
		菌力アップ 糖力アップ 本気Ca(マジカル)	5リットル 5kg 2kg	7～10日おきに 継続して灌水	開花期は、糖力アップを多めに灌水すると肥大、花着きが良いです。莢の肥大の為、土壌には水分が必要です。随時乾燥具合を見ながら、灌水作業を行ってください。カルシウムを供給することで、食味、甘味が乗り、しみ症などの生理障害予防にもなります。本気Caは、日照不足等による花落ちの予防にも良いです。
		コーソゴールド 本気Ca(マジカル) 海王	500倍希釈 2000倍希釈 5000倍希釈	葉面散布 (随時)	花芽分化促進と病害虫抵抗性向上のために散布します。農薬と混合施用して良いです。展着剤を加用します。病害虫がある時は、純正木酢液500倍希釈、またはイーオス(高酸度食酢)500倍希釈を併用します。うどんこ病の場合は、イーオス10倍希釈に、ケイ酸カリ(粉末)をイーオスの1/5量混ぜて一晩浸漬し、その上澄み液を併用します。 (例)水9L+イーオス1L+ケイ酸カリ200g →上澄み液を30～50倍希釈で葉面散布

※播種時、定植時以外は、土壌水分が多くなりすぎないように、排水整備、水分管理してください。

※栽培時期や土壌分析結果等により、施肥量は加減してください。

※まめ類は本来、ワックス層が発達した葉を持っており、葉面からの塩基流注(リーチング)が少ないため、塩類を蓄積しやすい植物です。

そのため、家畜糞尿堆肥など塩類の多い堆肥の多用による弊害があるので、できるだけ植物性の堆肥(有機物)を使用してください。